

令和5年度後期 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶

事務部 番場 晴美

卒業式に読まれた卒業生代表挨拶をご紹介します



今日は私達のために卒業式という素晴らしい式を開いていただきましてありがとうございます。

私はいぜん他の通信制高校へ通っていました。バスケの特待生として入学し、部活に力を入れていましたが、先輩とのもめごとがあり、さらにバスケに対する気持ちが途切れたことが原因で学校へも行かなくなり、高校卒業を諦めようとしていました。しかし、高校卒業の資格はどうしてもとりたいという思いがあり、兄もこの学校の卒業生である事から、八洲学園大学国際高等学校への転学を決めました。また、母からも『高校卒業はしてほしい』という思いがあったため、高校卒業を目指そうという気持ちになりました。



八洲学園大学国際高等学校へ転学したのは今年度四月。最初はどうなるかなと思っていましたが、スクーリングに参加すると、みんなと話すことがおもしろく、そして、みんな優しくかったから、すぐに友達になることができました。初めて参加したスクーリングは7月。マリンスポーツがテーマのスクーリングで、ダイビングに挑戦しました。あんなに深くもぐったことは初めてで、とてもきれいでした。なかなか、このような機会がないため、とても充実した時間となりました。



そして、卒業を目指す今回のスクーリング。前回のスクーリングで一緒だった仲間と時期をそろえて参加しました。初めてのスクーリングとは違い、友人と一緒に参加できることで、気持ちが楽でした。スポーツ大会では、リレーや綱引きでチームが団結し勝つことができよかったです。みんなで、何かに取り組んだり、みんなで協力したり、こんな機会はないから、いい思い出になりました。



私が、八洲学園大学国際高等学校に転学を決めるまで、母には、迷惑をかけてきました。私が学校や警察などから呼ばれた時も、すぐにかけてくれた母。どんな時も投げやりにせず、母が私のために頭をさげ、たくさん助けてくれた事、本当に感謝しています。転学する際、前の高校ともめた時も、私が卒業できるようにと最後まであきらめずに、やりとりをしてくれた母。そして、私が『やりたい』と思う事を決して否定することなく自由に挑戦させてくれた母。女でひとつでここまで育ててくれた母は、どんなに忙しい時でも、仕事前に必ずお弁当を作ってくれました。沖縄伝統芸能の獅子舞を兄弟でおこなっている際は、どんなに疲れていても、出演があるたびに、送迎をしてくれました。朝から夜遅くまで仕事を頑張って、家族を第一に考えてくれる母。本当にありがとう。



在校生の皆さん、高校卒業を応援してくれる人は必ずいます。時には無理をしてしまう事もあると思いますが、無理をしすぎないように進んでください。私はバスケットの実業団を目指しています。また、自分で会社を立ち上げる事も夢です。夢実現へ向けて頑張りたいと思います。



令和6年2月25日 卒業生代表 宮里 吏良



本日、このような素敵な卒業式を挙げていただき、卒業生を代表し御礼申し上げます。ありがとうございます。一緒に卒業を迎える皆さん、今日までお疲れ様でした。卒業生の皆さんが、ここにいる理由や背景、そして苦勞も含めて様々だと思います。それぞれが、自分に拍手をしてもいいかと思います。お互いよく頑張りましたね。

私の中学生生活は、学校に行かない期間や行ったとしても、給食時間からということも多々ありました。そのような中、何かに打ち込めるようにと、母が演劇を学ぶ機会を探してきてくれました。レッスンに通ううちに、歌やダンス、何かを演じることが楽しくなってきました。学校以外にも居場所を見つけることができたことが、私の支えでした。でも、学校にはきちんと行くことができなかつたので、きっと私は、友達のように、普通の高校生にはなれないと心配や不安がありました。そのように



父がこの八洲学園大学国際高等学校を探してきてくれました。



中学を卒業してからは、他の同級生のみんなと同じように 3年で卒業をしようと決めていました。しかし、意外と課題も多かったのと、スクーリングは1年に1週間程度でしたので、正直本当に卒業できるか不安がありました。そこで、毎日少しずつ課題に取り組み、アルバイトをしながら、勉強の一環と称し、映画や舞台をたくさんみる機会を増やし、そして演劇のレッスンを受け続け、舞台や映像のお仕事をこなしていくという3年をイメージしていました。実際のところは、「毎日少しずつ課題に取り組み…」という部分が一番難しく、ある程度まとめて取り組んでしまったことが少し反省の部分でしたが、それ以外に関しては、ほぼ最初のイメージ通りの3年を過ごせたと思います。地元の同級生が普通に学校に行っている時間にアルバイトをしたり、沖縄県以外の場所でもミュージカルなどを見に行ったりするなど、自分のペースで思いっきり好きなことをしながら、きちんと高校卒業の資格を得られるというのは、自分に合った3年間だったと思います。

スクーリングでは、年齢も住んでいる場所も違う子と一緒にいることの不安や、短期間で仲良くなれるのか…と、とても不安でした。しかし、在学中の3回のスクーリングでは、その不安を感じることはありませんでした。1コマが少し長めの授業を受けることは、私にとってチャレンジングな経験でしたが、規則正しく生活をしたり、美味しい食事もあったり、イベントも楽しかったり、多くの友人ができたり…と、想像以上に充実した期間でした。こういうスクーリングなら、年にあと1、2回は参加してもいいかなと思いました。



スクーリング後は、励まし合う仲間が増えたのが、ここで得た宝のひとつです。在校生の皆さん、ぜひ濃密なスクーリングを通して、素敵な仲間を見つけてください。そして、普段の生活においても、何か熱中できるものを見つけて、卒業後に、なりたい自分になれるよう、前を向いて今をしっかりと進んでください。ここまで支えてくださった先生方はもちろん、両親にも感謝を伝えたいと思います。

卒業後は、舞台や映像などの表現者としての道に進みたいため、東京でさらに本格的に勉強をし、いろいろとオーディションを受けていく日々になります。越えなければならない壁もたくさんあるかもしれませんが、好きなことを思いっきりできることへの幸せを噛み締めつつ、昨日より今日、今日より明日と、日々成長できるよう頑張っていくことを皆様にお誓いし、卒業生代表挨拶とさせていただきます。これまでありがとうございました。

令和6年2月25日 卒業生代表 與那嶺 葵

